

平成23年度 学校評価書(自己評価・学校関係者評価)

1 学校の教育目標	1 自己の個性を伸ばし、意欲的に学び続ける人間の育成	
	2 自主自立の精神を持ち、社会の発展に寄与する人間の育成	
	3 心身ともに健康で、心豊かなたくましい人間の育成	
2 今年度の重点目標	1 キャリア教育の充実	3 危機管理体制の整備
	2 特別支援教育の推進	4 生涯学習講座の運営
3 昨年度の成果と課題	1 定通共通目標の進路決定率を昨年度より65%と目標水準を高く掲げたが、達成できなかった。今年度は、更なるキャリア教育の充実を図る。	
	2 生徒の登校日(学校行事を含む)の出席率、保護者のPTA総会や研修会への出席率など目標未達成の項目に対しては、検証・分析を行い、働きかけに努める。	

評価基準 A: 達成できた B: ほぼ達成できた C: あまり達成できなかった D: 達成できなかった

領域	重点目標	評価項目	自己評価	今年度の成果と課題	次年度への改善点	学校関係者評価	学校関係者の意見・要望
学校経営計画	開かれた学校づくりの推進 信頼される学校づくりの推進	学校評価の実施と活用 学校関係者評価の導入と活用 教育公務員としての倫理観の涵養	B	学校評価のシステムを定着させることができました。校内倫理委員会を計画通り開催し、充実した研修を行うことができました。	職員室LANの新規サーバ更新により、職員室旧サーバをグループウェア試用サーバに変更するべく準備を進める。	B	・学校評価システムを次年度も有効に活かし、よりよい学校運営を望む。・ネット・コモンズを活用し、事務の効率化等を通して、教員が生徒と向き合う時間の確保を図ってもらいたい。
学習指導	確かな学力の育成 確かな学修の保障	授業評価の実施と活用 シラバスの作成と活用 面談・添削を通じた学習意欲の喚起	B	授業評価・シラバスの活用が定着している。進路希望に応じた個別指導が充実している。	基礎学力や学習習慣が身につけていないまま入学し、学校生活に適應できない生徒への指導・対策。	B	・学校不適應の生徒が年々増えていくのではないかと危惧する。優秀な教員の確保と研修の充実を望む。・学力差が大きいと思うが、根気強い指導をお願いしたい。
生徒指導	心に響く生徒指導の実践 特別活動の充実	HR活動や行事を通じた協調性の涵養 生徒会活動や部活動を通じた自主性・責任感の育成	B	諸行事への取組が良好だった。地域貢献活動や震災に関するボランティア活動が活発に行われた。	新入生で、学校に来なくなる生徒が多い。学校全体での生徒指導のあり方を検討する必要がある。	B	・早期に検討し、学校全体としての生徒指導を望む。・様々な年齢、背景を持つ生徒がいるので、広い枠組みでの生徒指導が求められるのではないかと思う。
進路指導	キャリア教育の充実	進路情報提供と進路ガイダンスの実施 健全な職業観・勤労観の育成 卒業予定者の進路決定率の引き上げ	B	昨年度以上に範囲を広げて企業訪問を実施した。新規求人開拓にはなかなか結びつかない。	書類(欠席日数)で他の学校に差をつけられる生徒が多く、内定に結びつかない。欠席を減らす指導が必要。	B	・特に通信制において早期の対策を望む。定通合同で秋内定を目指してもらいたい。・出席率の向上を如何に図るか、より分析・検討を深めてもらいたい。
健康安全指導	危機管理体制の整備	危機管理マニュアルの改訂 防災・不審者対策の訓練・研修の実施 医療相談機関との連携の強化	B	実際の動きに即したマニュアルの一部改訂を行った。訓練は、予定通り6回実施した。	緊急情報等を生徒・保護者に伝えるためのサイトをHP上に掲載する。引き続きマニュアルの見直しを行う。	B	・震災の教訓を風化させないように、日々の危機管理を大切に。・個人としての危機意識、公の立場での行動の両方で考えることができるような指導を望む。
家庭・地域との連携	保護者や地域への情報発信 生涯学習講座の充実	「霞城学園通信」「霞城通信」の発行 学校評議員制度の活用 魅力ある講座の編成と生徒の参加促進	B	各通信とも定期的に発行した。生涯学習講座への生徒の参加や後期講座の受講者の増加が見られた。	講座内容やPR方法、さらにはその運営の在り方について検討を加えていく。	B	・アンケートを採り、生涯学習講座内容に生徒の要望を取り込むのも一案である。・マスクミへの取材依頼等も含め、積極的な広報活動を望みたい。
特別支援教育	特別支援教育の推進	配慮の必要な生徒への指導体制確立 個別支援チームの結成	B	2年間の研究成果を引き継ぎ、支援体制の定着、「実践事例集」の活用等、教育活動全般への浸透を図ることができた。	ライフスキル講座は定時制Ⅲ部で継続できた。通信制は今年度休講となったが、来年度全般への浸透を図ることができた。	B	・学力もさることながら、社会に出たときの様々な対処法、ライフスキルの習得に力を入れてもらいたい。・生徒個々に配慮を欠かさず意欲を引き出す教育活動を学校全体で継続していくことを望む。